

令和 7 年度全国学力・学習状況調査 結果概要

羽曳野市立高鷺南中学校

【実施日】

- ・ オンライン方式調査 令和 7 年 4 月 1 5 日 (火)
- ・ 筆記方式調査 令和 7 年 4 月 1 7 日 (木)

【実施生徒数】

3 年生 1 3 5 名

【実施内容】

- ◎ 教科に関する調査 国語・数学(筆記)
理科 (CBT)
- ◎ 質問紙調査 オンライン方式調査

【目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育政策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査内容】

調査問題、解答例、解説資料は国立教育政策研究所のホームページにて公開されています。下記リンクもしくは右 QR コードよりご覧ください。

<https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>



※今回お知らせする調査結果は、あくまで学力や学習状況の一部であり、生徒の学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

教科に関する調査…【 国 語 】

1. 成果と課題

※成果となる点については○、課題となる点については●で表しています

○●正答数の中央値が本校 7.0 問に対し、府では 7.0 問、全国では 8.0 問という結果であった。また、分布グラフから見ると、正答数 1～6 問の生徒割合は 33.2%であり、そのうち 16.3%（1～6 問正答数の中で 1 番高いパーセンテージ）は 6 問の正答数であった。正答数 8～14 問は 40.7%であり、8 問の正答割合は 14.8%（8～14 問の正答数の中で 1 番高いパーセンテージ）であった。

ことから、中央値より上の層は基本的な問題に加え、応用問題にも対応する力を持っている。反対に、中央値より下の層は漢字や文法、基礎的な古語などの基礎問題を間違っているパターンもある。

●課題として、特に際立つのは「自分の考えを書く」・「要約」などといった記述式の設定と文章内容の正誤を問う選択式問題である。なかでも記述問題は無回答の生徒も多く、何を書けばよいのかを見出せていない生徒が一定数いることが見受けられる。また、「要約」と似た視点になるのが、内容の正誤を問う問題である。文章を読み進めながら、何が書かれているのか、どういった点がポイントになるのかといった考えを苦手とする生徒が多いことも読み取れる。

2. 今後の取り組みの指針

課題は「自分の考えを書く」「内容を要約する」「新しい文章に触れる機会を多く設ける」といった点だと考える。今後の取り組みの重点としては、以下の3点を考える。

◇教科書だけでなく、新聞記事も活用した要約練習である。キーワードを探す練習や感想を入れないなどの注意点を覚えながら、月に1度は取り組ませ、自分の文章だけでなく、友達の上質なまとめ方も参考にさせたい。

◇入試対策のプリント学習。参考書などを活用し、週に1度は教科書外の新しい文章にふれ、読解力をつけていく取り組みを取り入れていく。

◇漢字や文法の小テストを実施し、基礎的な知識分野の学習の一層の定着を図る。特に文法は毎日のように学習するわけではないので、過去に学んだことが抜けている部分も少なくない。そのため、単元テスト・小テストを有効活用していくことで、自主的、継続的な学習習慣を身に付けさせる。

教科に関する調査…【 数 学 】

1. 成果と課題

※成果となる点については○、課題となる点については●で表しています

- 「B 図形」の領域において、平均正答率が(本校 46.9%/府 46.2%/全国 46.5%)、と大阪府、全国の平均より高かった。このことより、図形の特徴や角度、図形から読み取り説明することについての理解があるとわかる。
- 特に、多角形の外角の大きさを求める問題では、平均正答率が(本校 73.3%/府 60.7%/全国 58.1%)と正答率がとても高かった。
- また、文字式を利用して説明を完成させる問題でも、平均正答率が(本校 48.1%/府 44.3%/全国 45.2%)であった。これは、他の記述式問題の正答率が低い中、全国と比較しても高い正答率である。また、解答の内容をみても学校での学習した内容を使って、不備なく正解している割合が高い。
- 生徒質問紙の中の質問項目「数学の勉強は好きですか」の肯定的な回答は 66.4%、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」では肯定的な回答が 79.1%、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」の肯定的な回答が 62.7%と、どの項目についても府や全国より多く、数学の学習について意欲的な姿勢がある。
- 正答数が4問以下の生徒の割合が多い。今回の調査では単純な計算問題がなく、理解力が問われる問題が多かった。このことから、数学的に理解できていない生徒が多くいることがわかる。
- 素数を選ぶ問題の正答率が(本校 13.3%/府 31.2%/全国 31.8%)と極端に低かった。また、式の意味を読み取り説明する問題においても(本校 19.3%/府 24.5%/全国 25.7%)であり、全体的に数と式の領域において(本校 36.3%/府 42.4%/全国 48.3%)と全国や大阪府と比べて低い。このことから、数学的な用語や式の意味が理解できていない生徒が多いことがわかる。
- 記述問題5問のうちの4問において、無回答率が全国や大阪府より多い。残りの1問においても、大阪府よりは少ないが、全国よりは多い。また、記述問題で正答であっても、説明が不十分であるものの割合も高い。記述式の問題に慣れ、書き方について指導する必要がある。

2. 今後の取り組みの指針

- ・授業で毎行っている小プリントを継続し、基本的な知識・技能の定着を図る。その際、数学的な用語の意味を確認するなど、基礎的な内容の確認を行う。
- ・ただ計算を解くだけでなく、式の意味を考えたり、文章から式をつくったり、授業の中でねらいを明確にし、生徒が考えて取り組む時間を確保する。
- ・記述式の問題については、まずは慣れることが必要である。なぜそうなるのかを考えさせることや、理由を考えさせる授業など、各単元で複数回扱うように授業計画を立てたい。また、考えさせるだけでなく、記述する練習を行い、その際には正答の例を丁寧に示すようにする。

教科に関する調査…【理 科】

1. 成果と課題

※成果となる点については○、課題となる点については●で表しています

○選択式の問題において15問中14問が大阪府の正答率を上回っており、既知の内容について、概ね正答を選択できている。

○無回答率も10問中8問が府平均よりも低く、前向きに回答しようとする姿勢が伺える。

○記述問題において6問中5問が府の正答率を上回っており、表現する力の向上が見られる。

設問1(6) 探究の過程の振り返り記述

→ 全国平均に近く、探究活動の振り返り力が高い。(本校 78.0%/府 73.8%/全国 79.4%)

設問2(2) 情報の信頼性判断

→ 情報の信頼性を見極める力が高く、全国平均を上回る。(本校 94.8%/府 92.0%/全国 94.6%)

設問4(2) 一酸化炭素の性質に基づく避難行動判断

→ 気体の性質理解と安全行動の判断力が定着している。(本校 92.8%/府 92.2%/全国 92.8%)

設問3(2) 電気回路における抵抗の役割理解

→ 電気回路の知識が概念として定着している。(本校 84.1%/府 83.1%/全国 85.2%)

●元素記号を記述する項目については、大阪府および全国平均を下回っており、知識の定着および表現に課題が見られる。

設問1(5) 塩素の元素記号記述

→ 元素記号の理解が不十分(本校 31.8%/府 45.6%/全国 44.9%)。無回答率も高い(12.9%)

●探究的思考を問う問題の記述力に大きな課題。

設問2(1) 実験計画と予想結果の記述

→本校だけでなく全国的に正答率が1割台に低迷(本校 14.5%/府 12.4%/全国 14.0%)

2. 今後の取り組みの指針

- ・2年生より忘却曲線を意識した授業づくりを展開している。知識問題、記述問題ともに大阪府の平均を上回っており、知識の定着およびそれを活用する力が身につけているため継続して実施していく。
- ・記述式問題の無解答の要因として、書くことへの心理的抵抗が高いと考えられる。段階的な記述指導や、ペア・グループでの口頭表現から記述への移行を意識して指導の改善を図る。
- ・設問1(5)「塩素の元素記号を記述する」については授業で丁寧に扱ったにもかかわらず、正答率及び無回答率が良好ではなかったため、授業での扱い方から再検討する必要がある。
- ・設問5(1)「加熱を伴う実験において、火傷をした時の適切な応急処置を選択する」について正答率は85.6%と低くはないが、身体を守る上で正答率は100%をめざしたい。その上で授業における実験操作およびその説明についても更に充実を図っていく。

生徒質問調査…本校の傾向

1. 成果

- ・「(28) 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」に対して、「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」と回答した生徒の割合が、全国と比べて多い。（本校 37.3%/府 25.6%/全国 29.5%）
 - ・「(29) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができるとおもいますか」に対して、「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が、全国と比べて多い。（本校 44.0%/府 32.1%/全国 36.4%）
- これらのことから、ICT機器に触れ、それらを活用し、学習する機会が十分にとられていることがわかる。また、それらの経験からICTを使用する能力について、自信を身に付けていることも感じられる。
- ・「(31) 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」に対して、「発表していた」と回答した生徒の割合が、全国と比べて多い。（本校 29.1%/府 19.3%/全国 18.9%）
 - ・「(33) 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」に対して、「当てはまる」と回答した生徒の割合が、全国と比べて多い。（本校 29.1%/大阪府 20.6%/全国 20.2%）
- これらは、授業をはじめ、いろいろな話し合いの機会を設定し、他人の意見をしっかり聞き、自分の意見を発表することに取り組んできた本校の取り組みの成果と考えられる。

2. 課題

- ・「(5) 自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的回答した生徒の割合が全国に比べて少ない。（本校 79.1%、府 84.0%、全国 86.2%）
 - ・「(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して、肯定的回答した生徒の割合が全国と同程度である。（本校 91.1%/府 92.1%/全国 92.2%）
- 自己肯定感の低さが見受けられる一方で、学校の先生は認めてくれているという安心感をもって生活を送ることができている。
- ・「(12) 学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的回答した生徒の割合が全国に比べて多い。（本校 88.0%/府 84.3%/全国 86.1%）
- 学校に行くことに対しても、前向きなとらえができていることがわかる。
- ・「(17) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）に対して、「全くしない」と回答した生徒の割合が全国に対して多い。（本校 23.9%/府 11.5%/全国 7.7%）

- ・「(18) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」に対して、「全く使っていない」と回答した生徒の割合が、全国と比べて多い。（本校 53.7% / 府 34.0% / 全国 30.3%）
 - ・「(19) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」に対して、「全くしない」と回答した生徒の割合が、全国と比べて多い。（本校 41.8% / 府 24.3% / 全国 15.4%）
- これらのことから、学校での授業はしっかり受けているものの、授業の予習、復習など家庭学習の習慣がない生徒が多く、学習内容の習得につながっていないものと思われる。
- ・「(20) 学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（オンライン授業の場面も含む）」に対して、「教わっていない」と回答した生徒の割合は全国と同程度である（本校 42.5% / 府 31.9% / 全国 40.2%）
- 学習塾や家庭教師などを利用する機会が全国と比べて決して低いわけではないことがうかがえる。
- ・「(26) 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）」に対して、「全くない」と回答した生徒の割合が、全国と比べて多い（本校 47.8% / 府 36.8% / 全国 36.0%）
- 生徒が地域の活動や大人から学びを得る機会が少ないと考えられる。

3. 総評、今後の取り組み

- ・授業態度・行事の取り組み・部活動等、中学校生活では多くの生徒が、真面目に充実した生活を送っていると思われる。
- ・望ましい生活習慣が十分確立できていない生徒も多く、本校でこれまで取り組んできた「早寝早起き朝ごはん」の取り組みをさらに継続し、今後も生徒、保護者への啓発を推進する。
- ・授業など学校生活のいろいろな場面において話し合いの取組みを多く設定してきたことが、生徒にも肯定的に評価されている。今後も積極的に生徒どうしのコミュニケーションを活性化して、生徒間の相互理解、集団づくりにもつなげていきたい。
- ・生徒の自己肯定感を持ち、将来の夢や希望を明確にできるよう、教育活動において学校だけでなく地域や社会との連携の強化を図っていく必要がある。
- ・家庭学習の習慣が身につけていない生徒に対し、学習アプリ「ドリルパーク」なども活用して、具体的な学習課題を個別にフォローアップを行う必要がある。
- ・授業で PC・タブレットなど ICT 機器の積極的活用を図り、生徒の興味関心を高め、学力向上に効果的な活用できるように創意工夫を継続するとともに、ICT の使い方やリテラシーについての学習もさらに進めていく必要がある。